

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画

呉市立郷原小学校  
(郷原中学校区)

全国平均値との差

	国語	算数
呉市教育振興基本計画〈指標〉	+6.0	+5.0
令和8年度	—	—
令和7年度	—	—
令和6年度	—	—
令和5年度	+0.8	+0.5
令和4年度	-0.6	-5.2

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎…各学校 ◇…中学校区

科目	比較	重点課題	改善の方策	検証	
国語	<p>● 全国平均</p> <p>■ 県平均</p> <p>✕ 本校</p> <p>本校 <math>\frac{68}{69}</math> %</p> <p>全国 <math>\frac{67.2}{69}</math> %</p> <p>県 <math>\frac{69}{69}</math> %</p>	<p>◎ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することに課題がある。(設問2一)【読むこと】(平均正答率81.1%) (本校-8.9%)</p> <p>◇ 漢字を文章の中で正しく使うことに課題がある。(設問1三)【言葉の特徴や使い方に関する事項】(平均正答率72.6%) (本校-12.6%)</p>	<p>◎ 普段から、中心となる語や文、重要な情報に印を付けながら読む習慣を身に付けるために、矢印で結んだり線を引いたりするなど言葉と言葉を関連付けて整理する活動を設定する。全校で文章読解スキルの問題に帯タイムで取り組み、答えの導き方について考えさせる時間を設定する。</p> <p>◇ 同音異義語の漢字の筆記に課題があるので、文章の意味を考えて漢字を当てはめるよう指導する。言葉集めの学習や語彙の言い換えなどの学習を繰り返したり、他教科等の振り返りや日記等において、文章を書く活動を行ったりする中で、語彙を増やし適切に漢字を用いることができるよう指導する。</p>	<p>◎ 標準学力学習状況調査(12月)の【読むこと】の項目の正答率の全国平均との差を-5%以内にする。</p> <p>◇ 標準学力学習状況調査(12月)の【読むこと】の項目について、全学年の平均ポイントが昨年度より上回る。</p>	
	算数	<p>● 全国平均</p> <p>■ 県平均</p> <p>✕ 本校</p> <p>本校 <math>\frac{63}{64}</math> %</p> <p>全国 <math>\frac{62.5}{64}</math> %</p> <p>県 <math>\frac{64}{64}</math> %</p>	<p>◎ 台形の意味や性質について理解すること(設問2(1))【図形】(平均正答率59.8%) (本校-8.4%)及び、高さが等しい三角形の面積を比較する問題(設問2(4))【図形】(平均正答率20.8%) (本校-7.3%)など、図形の問題に課題がある。</p> <p>◇ 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題がある。(設問4(4))【データの活用】(平均正答率64.6%) (本校-10.5%)</p>	<p>◎ 図形の定義について説明をする学習を繰り返す。また掲示物で視覚に訴え、数学的な用語の意味を正確に捉えることができるように、様々な言い方で説明し直す活動を行い、正しく使えるようにする。</p> <p>◇ 他教科でも身のまわりにあるデータを読み取ったり、図に整理したりする活動を設定する。複数のデータを比較し、その特徴や傾向を数学的な表現を用いて説明する練習を行う。</p>	<p>◎ 標準学力学習状況調査(12月)の【図形】の項目の正答率の全国平均との差を-5%以内にする。</p> <p>◇ 標準学力学習状況調査(12月)の【データの活用】の項目について、全学年の平均ポイントが昨年度より上回る。</p>
		<p>◎ 台形の意味や性質について理解すること(設問2(1))【図形】(平均正答率59.8%) (本校-8.4%)及び、高さが等しい三角形の面積を比較する問題(設問2(4))【図形】(平均正答率20.8%) (本校-7.3%)など、図形の問題に課題がある。</p> <p>◇ 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題がある。(設問4(4))【データの活用】(平均正答率64.6%) (本校-10.5%)</p>	<p>◎ 図形の定義について説明をする学習を繰り返す。また掲示物で視覚に訴え、数学的な用語の意味を正確に捉えることができるように、様々な言い方で説明し直す活動を行い、正しく使えるようにする。</p> <p>◇ 他教科でも身のまわりにあるデータを読み取ったり、図に整理したりする活動を設定する。複数のデータを比較し、その特徴や傾向を数学的な表現を用いて説明する練習を行う。</p>	<p>◎ 標準学力学習状況調査(12月)の【図形】の項目の正答率の全国平均との差を-5%以内にする。</p> <p>◇ 標準学力学習状況調査(12月)の【データの活用】の項目について、全学年の平均ポイントが昨年度より上回る。</p>	

【来年度に向けて】

○ 国語科の標準学力調査の「読むこと」の項目の正答率については、全ての学年で全国平均との差を上回った。(平均+2.1)しかし、「知識及び技能」の項目について昨年度より平均ポイントが上回った学年は1つの学年だけであり、同一学年の伸び率が鈍化していることが分かった。「表現力」の向上に取り組み、「書く」項目については力を伸ばすことができたが、どの学年も漢字や文法、語彙力を問う問題で課題が見られる。来年度は帯タイムの活用や、文章の中で漢字を使う機会を増やす等の対策を講じていく。

○ 算数科の標準学力調査の「データの活用」項目や「図形」の項目について出題がない学年があり、十分なデータが得られなかった。昨年度よりも「活用」の項目で伸びが見られた学年は3つの学年であり、各学年の平均正答率が全国平均よりも上回った学年は4つの学年であったが、国語科同様、昨年度の全国平均との差が今年度上回った学年は1つの学年であり、同一学年の伸び率が鈍化していることが分かった。算数科では30%以下の平均正答率の児童が全校で8名(学級に1~2名)おり、個人差が大きいことや、基礎的な学力に課題が見られる学年が多い。小学校は来年度、重点的に算数科の授業改善に取り組む必要がある。